

Book reviews/ Titles of articles in other botanical journals / Announcements

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-03 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/48807

新刊紹介

○ Wu Zhengyi and Peter H. Raven (eds.): **Flora of China Vol. 9** A4判, 496頁, 2003年5月1日, Science Press, Beijing China. 20,000円前後.

本書は、中国産全高等植物を取り扱った80巻からなる中国科学院中国植物誌編纂委員会(編)『中国植物誌』の英語版である。全25巻のうち、今までに第4, 5, 6, 8, 9, 15, 16, 17, 18, 24の各巻が出版されている。この第9巻は、トベラ科からマメドキ科で、トベラ科, マンサク科, トチュウ科, スズカケノキ科, バラ科, マメドキ科を含んでおり、主要部分はバラ科である。もとの『中国植物誌』のバラ科は、第36巻(1974)シモツケ亜科とリング亜科, 第37巻(1985)バラ亜科, 第38巻(1986)サクランボ科の3巻からなる。今回はこれらが1巻に纏められて、科として調べる読者には取り扱い易くなった。そのかわりこの本には全く図がないので、次の図譜とセットで見ないといけなくなった。

この本は、既刊の中国版の完全な英訳版ではなく、各科には中国人以外の分類学者が参加しているので、学名等の一部変更が見られる。読者には、英語で書かれているので、言葉の点で理解し易くなったが、なにしろ中国は広く、それに種数が多いので、分類群の認識不足や異名の整理不足など今後の課題もある。(鳴橋直弘)

○ Wu Zhengyi and Peter H. Raven (eds.): **Flora of China illustrations Vol. 9** A4判, 205頁, 2004年, Science Press, Beijing China. 16,000円前後.

本書は、Flora of China Vol. 9の図譜版にあたり、前述のFlora of China Vol.9と対をなすものである。

この巻は、トベラ科からマメドキ科で、トベラ科, マンサク科, トチュウ科, スズカケノキ科, バラ科, マメドキ科を含んでいる。

この本の主な部分をなすバラ科は、『中国植物誌』では3巻からなり、第36巻(1974), 第37巻(1985), 第38巻(1986)である。それらに掲載されている図版のみを合わせたのがこの本であり、本は大きいサイズになったが、図版のサイズは全く同じである。非常に希に図版上で図の一部の配置替えがあったり、その植物の学名の変更のため、図の説明文の変更が見られる。本書に、以前の中国版にはない新しい図版を期待した読者には失望を与えるだろう。中国産バラ科の図を見たい読者は、傅 立国・洪 寿(編)の中国高等植物 第6巻 青島出版社(2003年10月)を見るとよい。(鳴橋直弘)

○ 猪上信義: 福岡県森林林業技術センター研究報告 第5号 福岡県森林林業技術センター所蔵 植物標本目録(上) A4判, 1217頁, 2004年3月31日, 福岡県森林林業技術センター, 非売品.

本目録は、同センター所蔵の維管束植物標本リストの上巻で、シダ植物と種子植物の双子葉離弁花類を取り扱っている。リストには、各種につき、学名、和名、コード番号、国や県指定の絶滅危惧種であれば記入、産地(地名、標高、標準地域メッシュコード、採集者及び標本番号、採集年月日、花や果実などの標本の状態)、まれにノートが記載されている。

1997年出版の福岡県高等学校生物研究部会(編)『福岡県植物誌』には、標本の引用がない。また、福岡植物研究会の筒井貞雄『福岡県植物目録Ⅰ』1988年、福岡植物研究会(編)『福岡県植物目録Ⅱ』1992年には標本も引用されているが、残念ながら第Ⅲ巻以降が出版されていない。今回のこの目録には標本も引用され、生育地の情報も備えているので有益な目録である。下巻の出版が待ち望まれる。

入手希望者は、猪上信義氏(〒839-0827 久留米市山本町豊田1438-2 福岡県森林林業技術センター FAX 0942-45-7901)へ問い合わせること。(鳴橋直弘)

○ A. V. Polozhij and L. I. Malyshev : **Flora of Siberia Vol. 8 Rosaceae** B5判変形, 197頁, 2004年7月, Science Publishers, Enfield USA. US \$92.00.

本書は、ロシア語のL. I. Malyshev (ed.) Flora of Sibiri, Vol. 8 Rosaceae, 1988, Nauka Publishers, Siberian Publishing, Co., のP. M. Raoによる英語の翻訳本である。

この巻は、全巻バラ科で、*Spiraea* から *Armeniaca* まで32属を含んでいる。

序章に地図や地域の説明があり、属の検索表が続く。シモツケ属から始まり、各属には種の検索表の後、種の学名と出典、形態の記載、染色体数、生育地の環境、シベリアでの地理的分布と国外の分布があり、最後に分布図番号がある。希に植物の線画がある。後半部分は、各種のシベリアでの分布図で、多くの図は半頁の大きさと分りやすい図である。しかし、残念ながら全種の分布図があるわけではない。本は小型で頁数も少なく、高価な感じがする。S. S. Charkevich の *Plantae vasculares orientis extremi Sovietici* tom. 8, 1996, Nauka,

Saint Persburg と合わせると、ロシア東部のバラ科フロラがよく理解できる。

(鳴橋直弘)

○ 大塚孝一：信州のシダ A5 判，195 頁，2004 年 8 月 26 日，ほおずき書籍，2,300 円。

本書は、長野県に自生するシダ植物 292 種を掲載したカラー写真図鑑である。

リファレンス，この本の使い方，長野市の市町村と地区分図，シダ植物の特徴，主な科のシダ，図鑑目次，人里のシダ，山地や渓谷のシダ，高原や湿地のシダ，高山や亜高山のシダ，暖地のシダ，シダの芽立ち，長野県産シダ植物目録，長野県版レッドデータブック掲載種，主な属の検索表，学名さくいん，和名さくいん，あとがき，著者略歴の項目からなる。

1 頁に 2 種掲載され，各種につき，常緑性か夏緑性か，葉の長さ，生えている場所，長野県内での分布，国内での分布が記載されている。シダ植物は，日陰に生育するものが多く，よい写真を撮ることは大変難しい。フラッシュをうまく使用し，綺麗な写真が多い。イナデンド，キタダケデンド，センジョウデンド，タカネシダ，ニオイシダ，ヤツガタケシノブなど，なかなか目にすることができない植物の写真が出ていて楽しい本である。

(鳴橋直弘)

○ 大場秀章(監修)・清水晶子：絵でわかる 植物の世界 A5 判，168 頁，2004 年 10 月 1 日，講談社，2,000 円。

本書は，初心者向けのイラストを中心とした植物学，特に形態学や分類学の入門書である。

本は，植物のかたち（基本は根・茎・葉），植物の生活（光合成のしくみと植物の反応），植物の生殖（花と果実の多様性と植物の生活史），植物の分類（被子植物のいろいろ）の 4 章からなっている。第 4 章の植物の分類では，植物には何が含まれるか，裸子植物の「花」，被子植物の分類研究，被子植物の特徴的な科，植物の学名と命名法，タイプ標本とハーバリウム，の各項目がある。

この本を，「植物が好きで，植物についてもう少し深く，体系的に知りたいと考えている人や，図鑑などの解説をよく理解できるようになりたいと考えている人のために書いた。」と著者は言う。イラスト画は大きく綺麗であり，また解説文は簡潔で要領よく書かれている。著者の出版意図が成功した本であり，植物学を学ぼうとする初心者や，生徒に教えようとする学校の先生には適した本である。

(鳴橋直弘)

○ 秋山弘之：苔の話 中公新書 1769 B6 判，216 頁，2004 年 10 月 25 日，中央公論新社，780 円。

本書は，コケ植物について総合的に解説した入門書である。

口絵にカラー写真が 24 枚あり，こけ学事始め，おそるべき環境適応能力，苔はこんなに役に立つ，苔に親しむ，の 4 章からなり，その後，あとがき，図鑑活用術，代表的な苔 20 選，苔庭ガイド，おもな参考文献，索引と続く。

高等植物は大型で，特に花や果実は魅力的でさえるため，古來人の気を引いて来た。一方コケ植物は小型であるがため関心を持たれてこなかった。この本は，コケ植物について，体の作り，生殖方法，生活史，年令推定，分類と類縁，雌雄性，同定の仕方，生育環境，地理的分布，動物との関係，適応力の強さ，利用方法，化学成分，環境指標植物，日本人のコケ観，野外調査，栽培法等，非常に多岐に亘って書かれている。コケ植物の魅力之余す所なく知らしめようと努力された結果と思われるが，幾つかを割愛され，的を絞られた方が良かったかもしれない。デュリングの分類の項は，コケ植物の生活史戦略を 5 つに分けて解説しているが，初心者には，もう少し説明を付け加えてほしかった。いずれにしても，コケ植物に情熱を燃やされている著者の意気込みが出ている面白い本である。

(鳴橋直弘)

○ 本間健彦：イチョウ精子発見の検証 平瀬作五郎の生涯 B5 判，292 頁，2004 年 11 月 10 日，新泉社，2,300 円。

本書は，イチョウの精子発見という当時東大助手平瀬作五郎の，世界的業績に対する世間の評価を，その時代の背景を踏まえて検証した本である。

本は，序 光芒と封印の謎，第 1 章 維新の青春像と青雲の志，第 2 章 洋画・図画教育の〈夜明け前〉，第 3 章 東京大学草創期の光と影，第 4 章 イチョウの精子発見の栄光と受難，第 5 章 南方熊楠との共同研究に賭けた在野魂，あとがき，平瀬作五郎年譜，参考文献，解説一堀 輝三，からなる。

平瀬作五郎は，ぎんなんの成熟期を迎えると，この大イチョウの木（東大の小石川植物園内にあるイチョウ）に梯子をかけて下枝に櫓を組み，そこへ布団を持ち込み，夜になると提灯を灯し何日も徹夜をし，一定時間ご

とにぎんなんを採集した、とこの本に書かれている。研究に対する想像を絶する努力である。

平瀬の業績に対して、同じ助手であった牧野富太郎の評価があり、彼は決して高くは評価していない。平瀬の結果を、偶然の拾い物で、論文にするなどは池野成一郎の援助がなければ成り立たず、これは池野の仕事であり、発見であった、どのような意見を述べていると書かれている。

平瀬は2度にわたり、彦根城のオオトックリイチゴの標本を牧野に送っている。牧野はこれを基に、この植物に *Rubus hiraseanus* Makino という学名を与えている。彼ら2人の関係はいったいどうであったのだろうか。とにかく、私には非常に面白い本であった。
(鳴橋直弘)

○ 清水敏一：大雪山の父・小泉秀雄 A5判, 438頁, 2004年11月11日, 北海道出版企画センター, 4,500円。

本書は、山と植物を愛した小泉秀雄の凄絶な人生の伝記である。

小泉岳の主・小泉秀雄, 小泉秀雄の生涯, 大雪山調査行, 南アルプス調査行, 北アルプス調査行, 千島エトロフ島調査行, 北千島調査行, 成果と追録の各章からなり, あとがき, ご教示, ご協力をいただいた方々及び団体, 参考文献資料, 小泉秀雄年譜, 小泉秀雄著作論文一覧, 人名索引が巻末にある。

小泉秀雄は, 1885年山形県生まれで, 盛岡高等農林学校農学科中退, 独学で教員免許を取得後, 北海道, 高知県, 長野県の学校の教師を経て, 最後は共立薬学専門学校に職を得て, 59才にて没した。その間, 植物採集, 植物観察, 植物画に没頭し, 多くの業績を残した。彼の採集した標本は約12万点あり, それらの整理が国立科学博物館で行われているという。早く日の目を見ることを希望する。また, 彼の描いた線画は, 詳細で正確だという。画については, 清水敏一(編)『小泉秀雄植物図集』小泉秀雄植物図集刊行会(1995年1月18日発行)を参照されたい。

植物分類学を学ぶ者にとって, 元京大教授小泉源一の名前を知らない人はいないが, その実弟である小泉秀雄の名前はあまり知られていない。この本は完成度の高い小泉秀雄の伝記であり, 著者清水敏一氏の努力の果たした本である。植物を学ぶ者にとって, 植物に取り付かれた一人の人間の人生を垣間見て, 感動と共感を覚えざるをえない。
(鳴橋直弘)

○ Ran Levy-Yamamori and Gerard Taaffe: **Garden plants of Japan** A4判, 440頁, 2004年10月, Timber Press, Portland USA. US \$59.95.

本書は, 庭木に用いられている日本の植物について, 英文で解説した本である。対象となる植物は主に低木や高木であるが, 一部の草本植物, シダ植物, コケ植物も取り扱われている。

本書の本体をなす各植物の解説は, 学名, 和名, 英名, 科名, 分布, 短い記載, 土壌条件, 光条件, 剪定方法, 繁殖方法, 耐寒性, 利用の仕方, 盆栽としての利用, その他興味ある点, 関連植物の項目の順で書かれている。

日本人が子供の頃から慣れ親しんできた植物を, 外国人が見た時にどのような印象をもつのだろうか。この本の中の植物の写真には, 我々日本人の目では捕えられないと思われるような写真があるし, なるほどこういう見方をするのかというものもある。花や植物それ自体の写真が多いが, 中にはそれが植えられている屋敷や, 神社仏閣も写っていて, 独特の雰囲気醸し出しているものもある。写真は綺麗で, 見ていて楽しい本である。
(鳴橋直弘)

○ 森谷 憲: **Australian flowers** オーストラリアの花 A5判, 173頁, 2002年8月30日, 下野新聞社, 1,800円。

我々にとって南米やオーストラリア, アフリカなど南半球の植物は適当な図鑑もなく, 調べ上げるのは容易なことではない。少々時間が経ったが「オーストラリアの花」が森谷 憲博士によって出版されたのでここで紹介しておきたい。

この本はオールカラーで1頁に4~5枚のカラー写真, 全部で787種が花の色によって配列されている。2, 3例を挙げると低木性のナンキョクブナ *Nothofagus cunninghamii*, 原始的被子植物シキミモドキ *Drimys lanceolata* などめったに見ることのできない種類が美しいカラー写真で示されているのは大変ありがたい。ユーカリの樹上にあるコアラの写真も面白い。
(清水建美)

植物関連雑誌のタイトル紹介

(括弧内は頁数を示す。雑誌によっては編集部で植物自然史関係のもののみ選択した。雑誌の閲覧を許可された富山市科学文化センター、富山県中央植物園に感謝いたします。掲載を希望される方は、雑誌を編集部までお送り下さい。)

- 上士幌町ひがし大雪博物館研究報告 第 26 号 2004 年 3 月
(〒080-1403 北海道河東郡上士幌町字糠平 上士幌町ひがし大雪博物館)
丸山まさみ・丸山立一・紺野康夫：北海道大雪山国立公園，然別湖の植物 I. 然別湖植物目録（第 1 版）（1-22）／丸山まさみ・丸山立一：北海道大雪山国立公園，然別湖の植物 II. ヤチヤナギ生育地の植生（23-32）／久保博之・久保田康裕：長期モニタリングによる北方林の群集動態（33-45）
- 群馬県立自然史博物館研究報告 第 8 号 2004 年 3 月
(〒370-2345 群馬県富岡市上黒岩 1674-1 群馬県立自然史博物館)
大森威宏：群馬県浅間山北麓における植物分布の新知見-長野県中信及び東信地域の高原と関連して（119-122）
- 茨城県自然博物館研究報告 第 7 号 2004 年 3 月
(〒306-0622 茨城県岩井市大字大崎 700 ミュージアムパーク茨城県自然博物館)
杉村康司：福田 均氏蘚苔類コレクション-久渡寺山（青森県）で採集された蘚苔類-（77-196）／小幡和男・中川久夫・高野信也・根本 智・廣瀬孝久・太田俊彦：北浦・常陸利根川水系の植物相（203-237）
- 千葉県立中央博物館自然史研究報告 第 8 巻第 1 号 2004 年 3 月
(〒260-8682 千葉市中央区青葉町 955-2 千葉県立中央博物館)
大野啓一：タニギキョウに見られる冬緑性と夏緑性の地域的違い（13-24）／原 正利・磯谷達宏・内山慶之・大盛雄治：分布北限となる三浦半島小田和湾のウバメガシ林（25-30）
- 食虫植物研究会々誌 第 55 巻
(〒102-8159 東京都千代田区富士見 1-9-20 日本歯科大学生物学教室内 食虫植物研究会)
第 4 号（通巻第 189 号） 2004 年 10 月-小宮定志：ムジナモ発見地江戸川で復元プロジェクト（164-166）
- FLORA KANAGAWA No.58 2004 年 9 月
(〒250-0031 神奈川県小田原市入生田 499 県立博物館内 神奈川県植物誌調査会)
浜口哲一：メリケントキンソウの花（716-717）／浜口哲一：平塚のキバナスズシロ（717）／関野祥子：大山でサカネランを観察（717）／城川四郎：ヒメノヤガラの新産地（718）／木場英久：日本新産種クキナシマツヨイグサ（718-719）／堀内 洋：神奈川県植物誌 2001 の補遺，正誤及びその後の新知見（719-721）／木場英久：オオチゴユリとエダウチチゴユリ（722-723）／出川洋介：入生田からタキミシダを発見（723-725）／勝山輝男：上瀬谷のキクバアリタソウ（725-683）
- 川崎市青少年科学館紀要 第 15 号 2004 年 3 月
(〒214-0032 川崎市多摩区枳形 7-1-2 川崎市青少年科学館)
吉田三夫：登戸付近の多摩川・河原の花暦と注目すべき植物（11-16）／吉田三夫：川崎のふるさとの森について（17-21）／平岡照代・平岡正三郎：こんなところにハリスギゴケが（81-82）／吉田三夫：アケボノソウの花被片数について（83）
- 横須賀市博物館研究報告（自然科学） 第 51 号 2004 年 3 月
(〒238-0016 横須賀市深田台 95 横須賀市自然・人文博物館)
大森雄治：センリョウの訪花昆虫の一例（67-68）

○ 自然環境科学研究 第17巻 2004年12月

(〒220-0102 神奈川県津久井郡城山町原宿 5-15-6 平岡環境科学研究所)

佐々木シゲ子・平岡照代：神奈川県横浜市・鎌倉市で新たに発見されたダングゴケとフガゴケ（蘚類）の生育地（37-41）／石井雄也・中村俊彦：砂土・赤土・黒土における初期遷移と帰化植物（51-57）／木口博史・平岡照代・川津英子・佐々木シゲ子：神奈川県産イクタムコハケゴケ *Campylopus gemmiparus* (63-66)／平岡照代・磯野寿美子・平岡正三郎：生藤山（神奈川県津久井郡藤野町）周辺の蘚苔類（67-84）／近田文弘・松本 定・勝山輝男・野口英昭・笹本岩男：下田市須崎の帰化植物（85-93）

○ 山梨植物研究 第17号 2004年4月

(〒400-0075 甲府市山宮町 2800-109 大久保栄治方 山梨県植物研究会)

村田 源：ドングリ（団栗）を科学する（1-3）／磯田 進：山梨の毒草（2）（9-19）／渡辺長敬：山梨県内のハナヤスリ科（ハナヤスリ属）とヒロハハナヤスリの生育地（20-21）／田中 智：北巨摩郡のトリカブトについて（22-23）

○ 富山市科学文化センター研究報告 第27号 2004年3月

(〒939-8084 富山市西中野町 1-8-31 富山市科学文化センター)

根来 尚：立山亜高山弥陀ヶ原高原における訪花昆虫調査（31-44）／佐藤杏子・岩坪美兼・渡邊幹男・太田道人：立山における外見上セイヨウタンポポとみなされる植物の実体（53-60）／佐藤 卓・平内好子・野口泉：富山県平村相倉トチノキ林の森林構造とササラダニ類（61-67）／太田道人：富山県新記録の植物 17（71）／中川定一・太田道人：ヤナギヌカボを富山県のフロラに追加する（73）／坂井奈緒子・樋口正信：笹岡久彦氏の報告と標本に基づく富山県の蘚類チェックリスト（87-112）

○ 富士竹類植物園報告 第48号 2004年8月

(〒411-0932 静岡県駿東郡長泉町南一色 885 日本竹笹の会)

村松幹夫：スオウチクの開花の様相と芽生の形質（3-18）／小林幹夫：タケ類における一斉開花枯死現象の遺伝学的意味（19-26）／解語 玄：ササに寄生するナンバンギセルとオオナンバンギセル（39-42）／濱田甫：鹿児島県甕島産竹と利用（43-52）／若山幸央：続 続報・モウソウチクの部分開花（53-62）／濱田甫：鹿児島県産竹類の新知見（20）（63-76）／解語 玄：愛知県名古屋市緑区、大高緑地内に在るメセコイア広場に侵入した竹を除去した後、確認できた植物と生物（2003年6月～9月の4か月間の観察記録）（115-122）／室井 綽：逸出竹類の皆伐（139-140）／多賀直人：竹の流通名について（185-186）／室井 綽：バンブー・ノート（43）（187-195）

○ 岐阜県博物館調査研究報告 第25号 2004年3月

(〒381-0075 岐阜県関市小屋名岐阜県百年公園内 岐阜県博物館)

井上好章：博物館ボランティア活動の活動事例～ボランティアの方と共につくりあげていく植物標本製作と整理活動（7-12）

○ 豊橋市自然史博物館研究報告 第14号 2004年3月

(〒441-3147 豊橋市大岩町字大穴 1-238 豊橋市自然史博物館)

藤原直子：豊橋市自然史博物館所蔵「恒川敏雄コレクション」に基づく愛知県豊橋市石巻山産種子植物目録（21-41）

○ ため池の自然 第39号 2004年6月

(〒480-1195 愛知県愛知郡長久手町岩作 愛知医科大学医学部寄生虫学研究室 近藤繁生方 ため池の自然研究会)

中村憲男：茨城県とその近隣のため池調査（1-6）／浜島繁隆・磯部亮一：別曾池（知多半島、武豊町）に隣接する小湿地の植生（11-13）／浜島繁隆：塚の杵池（名古屋市長東区）の水草でみられた22年間の優占種の変化（14）

○ 京都植物 第 27 卷

(京都植物同好会 幹事：〒606-0026 京都市左京区岩倉長谷町 486 1 F 1-3 田中 徹)

第 3 号 2004 年 9 月—村田 源・津軽俊介：京都府新産植物 19 (5-7) / 村田 源：エゾノキツネアザミ丹後の府道法面に大発生 (7) / 山崎俊彦：洛西ニュータウン・乙訓の街路樹・公園樹 (8-11) / 村田 源：アサザの群落八幡市の水路に復活 (11-12) / 田中 徹：クサネムの根粒と茎粒 (19-20) / 前田 徹：宇治市 (東部) の植物・菌類の民俗 (聞き取り調査による中間報告) (14-20)

○ くろしお No.23 2004 年 10 月

(〒644-0011 和歌山県御坊市湯川町財部 522-2 南紀生物同好会)

山本修平：和歌山県のヤマヒハツ (トウダイグサ科) について (21-22) / 湊 宏：タシロランを潮岬で確認する (27) / 北野一夫：和歌山県有田地方の帰化植物について (28-29) / 北野一夫：和歌山における絶滅危惧種の野草採集記録 1999.11~2004.5 (42-47)

○ 和歌山県立自然博物館館報 第 22 号 2004 年 12 月

(〒642-0001 和歌山県海南市船尾 370-1 和歌山県立自然博物館)

内藤麻子：和歌山県立自然博物館ハーバリウム (WMNH) (35-74)

○ 倉敷市立自然史博物館研究報告 第 19 号 2004 年 3 月

(〒710-0046 岡山県倉敷市中央 2-6-1 倉敷市立自然史博物館)

片山 久：岡山県産ヤナギ科植物 I (1-65) / 狩山俊悟：岡山県植物誌資料 (2) 岡山県のツツジ科スノキ属 (75-85) / 狩山俊悟・小島裕子・榎本 敬：岡山県新産の帰化植物 (15) (91-94)

○ 比婆科学 第 214 号 2004 年 12 月

(〒727-0013 広島県庄原市西本町 1 丁目 7-7 中村慎吾方 比婆科学教育振興会)

窪田雄一・窪田正彦：広島県植物誌資料 (6) (17-22, 3 図版) / 橋本卓三：旧三次市内でミクリ属 3 種を確認 (23-24) / 太刀掛 優・久藤広志：呉市で発見されたハマセンダンの測定記録 (24-25) / 桑田健吾：オオホナガアオゲイトウについて (26-27)

○ 鳥取県立博物館研究報告 第 41 号 2004 年 3 月

(〒680-0011 鳥取市東町 2-124 鳥取県立博物館)

清末幸久：鳥取県に新たに帰化したトキワアワダチソウとベニバナサワギキョウ (9-14)

○ 山口県立山口博物館研究報告 第 30 号 2004 年 3 月

(〒753-0073 山口市春日町 8-2 山口県立山口博物館)

嶋村拓実：山口県におけるシダ植物の分布 (2) (1-52)

○ 山口県植物研究会会報 Vol.3 No.2 2004 年 12 月

(〒744-0002 山口県下松市上豊井万福寺 真崎 博方 山口県植物研究会)

真崎 博・真崎 久：徳地町引谷 白石山の植物 (1-5) / 真崎 博・真崎 久：山口市吉敷 油ノ峠の植物 (5-7) / 真崎 博・真崎 久：宇部市小野 柳小野の植物 (8-11) / 真崎 博：山口県産高等植物についての新知見 (11-12)

○ 香川県自然科学館研究報告 第 24 卷 -長期研修生の部- 2004 年 3 月

(〒762-0014 坂出市王越町木沢 1901-2 香川県自然科学館)

永原純子：香川県中部域におけるガガブタ (*Nymphoides indica*) 2 型花の分布について (1-10)

○ 徳島県立博物館研究報告 第 14 号 2004 年 3 月

(〒770-8070 徳島市八万町向寺山徳島県文化の森総合公園 徳島県立博物館)

茨木 靖・木内和美・斎藤 正：徳島県から新たに発見された帰化植物3種：アレチキンギョソウ，ニセアゼガヤ，ホウキヌカキビ (133-135) / 小川 誠・木下 學・田渕武樹：園瀬川流域 (徳島県) におけるフジバカマの分布 (137-140)

○ 北九州市立自然史・歴史博物館研究報告 A 類 (自然史) 第2号 2004年3月

(〒805-0071 福岡県北九州市八幡東区東田二丁目4-1 北九州市立自然史・歴史博物館)

板谷明美・山本信一：空中写真を用いた原生林の林冠動態調査法-解説- (71-78) / 鈴木健夫・真鍋 徹・伊東啓太郎・梅野 岳：デジタル相観植生図を用いた北九州市中北部域の景観変遷の解析 (79-85)

○ 佐賀自然史研究 第10号 2004年10月

(〒849-0303 佐賀県小城郡牛津町大字牛津152-4 上赤博文方 佐賀自然史研究会)

溝上誠司：佐賀県未記録種のダイサギソウを伊万里市で発見 (1-2) / 岩村政浩：佐賀平野の植物目録 (17-60) / 上赤博文：佐賀平野の水草 (61-77) / 上赤博文：佐賀平野の河原植生と水田植生 (79-91)

○ 宮崎県総合博物館研究紀要 第25輯 2004年3月

(〒880-0053 宮崎市神宮2丁目4-4 宮崎県総合博物館)

斉藤政美・秋本 治：キリタチヤマザクラの分布と形態 (17-25)

○ 熊本博物館館報 No.16 2004年8月

(〒860-0007 熊本市古京町3-2 熊本市立熊本博物館)

西田靖子・熊本博物館植物同好会会員：熊本城内植物相調査(第1報) — 三の丸地域 (2003(平成15)年分) — (87-93)

○ 沖縄生物学会誌 第42号 2004年10月

(〒903-0213 沖縄県中頭郡西原町字千原1 琉球大学理学部海洋自然科学科内 沖縄生物学会)

仲松綾乃・傳田哲郎・横田昌嗣：ミタニクラマゴケ (イワヒバ科) は沖縄島に産するか? (39-45) / 立石庸一・松村俊一・山城 考・新城和治：琉球列島植物分布資料17 (61-67)

(編集部 中田政司編)

会 記

新入会員 (2004年8月~2004年11月)

- 8月13日 山根 明 〒810-0004 福岡市中央区渡辺通1-1-1 電気ビルサンセルコ別館4F
西日本技術開発(株)
- 9月16日 高橋 新平 〒206-0804 稲城市百村1619-1 ライオンズマンション稲城704
- 9月16日 永益 英敏 〒606-8501 京都市左京区吉田本町 京都大学総合博物館
- 10月12日 大角 信介 〒422-8046 静岡市中島3158 BL TOWN A 103
- 11月1日 内藤 寛文 〒930-8555 富山市五福3190 富山大学理学部生物学科
- 11月1日 北川 隆康 〒666-0129 川西市緑台6-1-47

住所・氏名変更及び訂正 (2004年8月~2004年11月)

- 太田 智 〒422-8529 静岡市大谷836 静岡大学農学部育種学研究室 → 〒305-8605 つくば市藤本
2-1 農業技術研究機構果樹研究所遺伝育種部
- 田村 淳 〒222-0024 横浜市港北区篠原台町5-1-131 → 〒241-0815 横浜市旭区中尾1-4 二俣川
アパート2-221
- 畠山 茂雄 〒028-3452 岩手県紫波郡紫波町片寄字川原67-2 → 〒028-3452 岩手県紫波郡紫波町片
寄字川原70-1
- 真崎 久 〒743-0052 光市三井6-14-1-104 → 〒753-0811 山口市吉敷3338-65 下京面住宅204
- 御影 雅幸 〒920-0934 金沢市宝町13-1 金沢大学薬学部薬草園 → 〒920-1192 金沢市角間町 金
沢大学大学院自然科学研究科(薬学部附属薬用植物園)
- 実吉智香子 〒065-0011 札幌市東区北11条東5丁目 ノースソニア115 106号室 → 〒065-0017 札
幌市東区北17条東1丁目1-10 ノースタウン17 402号室

「植物地理・分類学会 2004 年度大会」

2004 年度大会は 6 月 5 日(土)に金沢大学サテライトプラザ (石川県金沢市西町 3 番丁 16 番地 金沢市西町教育研修館内)で行われた。

総会は午後 1 時から開始され、はじめに大塚孝一氏を議長に選出した。庶務幹事から 2003 年 6 月から 2004 年 5 月までの活動報告が行われ、会誌の発行状況、幹事会・評議員会での審議内容、等が報告された。引き続き会計幹事から会計報告が行われた。会計監査の兼本 正氏より会計報告に誤りがないと報告が行われ、質疑ののち会計報告は総会で承認された。編集委員長から会誌「植物地理・分類研究」第 52 巻の編集状況について報告があった。最後に会長から 2005 年度大会は長野県で開催されることが報告された。

引き続き議事は協議事項に移った。初めに役員改選が行われ、以下のように決定した：会長 鳴橋直弘；幹事 木下栄一郎 (庶務担当)、岩坪美兼 (会計担当)、植田邦彦 (渉外担当)、太田道人、野上達也、西澤徹、古池 博、山崎貴博；編集委員長 鳴橋直弘；会計監査 佐藤 卓、兼本 正；評議員 石沢 進、大塚孝一、高橋 弘、中田政司、御影雅幸。次に、庶務幹事から活動計画、会計幹事から予算案の説明があり、質疑の後それらは賛成多数で承認された。協議事項は以上であり、会員からの動議等は 1 件もなく総会は全て終了した。

午後 2 時から「植物地理・分類学会賞」授賞式が行われた。鳴橋会長が学会賞審査委員会の審査報告を読みあげ、受賞者の小林禧樹氏に賞状と副賞が贈られた。引き続き「テンナンショウ属からみた兵庫県のフロラ」と題する受賞講演と質疑が行われた。なお、学会賞審査報告は「植物地理・分類研究」第 52 巻第 1 号に掲載されている。午後 3 時から邑田 仁氏 (東京大学大学院) による招待講演「最近のテンナンショウ属分類の進展」が行われた。午後 4 時から以下の 5 題が一般講演として行われ、午後 5 時 30 分に大会は無事終了した。

1. 野上達也 (石川県白山自然保護センター)：白山におけるオオバコの分布と変化
2. 榎本良祐 (兵庫県立三木東高等学校)・岩坪美兼・鳴橋直弘 (富山大・理・生物)：カタバミ属 4 種の染色体数とカタバミの倍数性
3. 三浦憲人 (日光自然博物館)・岩坪美兼・鳴橋直弘 (富山大・理・生物)：カキドオシの倍数性と形態
4. 西澤 徹 (金沢大・院・自然科学)・綿野泰行 (千葉大・理・生物)・河原孝行 (森林総研・北海道)・木下栄一郎・植田邦彦 (金沢大・院・自然科学)：マムシグサのトラップ式花序と送粉様式 — 種子の花粉親推定からみえてきた花粉流動のパターン
5. 須山知香・西澤 徹・植田邦彦 (金沢大・院・自然科学)：DNA のとれる標本、採れない標本

午後 6 時 30 分から KKR ホテル金沢に会場を移し、懇親会が和やかに行われ、午後 9 時に散会した。

奥獅子吼エクスカーション参加記

6 月 6 日朝 9 時、天候にも恵まれ、鳴橋会長をはじめ参加者一同、20 名あまりの方々が鶴来町森林公園に集合しました。獅子吼高原ロープウェイ乗り場まで車で移動し、獅子吼高原頂上駅 (標高 640 m) に着きました。手取扇状地が一望に見渡すことができる絶好のビューポイントです。案内をしてくださるのは地域植物研究会の古池さん、白井さんです。ちょっと早めの元気グループは白井さん、ゆったりグループは古池さんの案内で、観察会が始まりました。

春に満開だったカタクリが実をつけており、初夏の植物を見ることができました。少し下ってから、緩やかな傾斜のある道を進みました。林内に入ったり、景色を見渡せる尾根道に出たりしながら、スギ林や広葉樹林で見られた植物を順にあげてみ



ます。コウゾリナ、ヤマボウシ、ゴマナ、イタドリ、ハハコグサ、ガマズミ、ヒメスイバ、エゾタチカタバミ、トボシガラ、ヤマヌカボ、チマキザサ、ミヤマイボタ、ウスバサイシン、ハナニガナ、アツミカンアオイ、シバスケ、エゾニュウ（シシウドの北方型）、タチシオデ、ヒメカンスゲ、コアジサイ、シュロソウ、ヒロバスケ、エチゴキジムシロ、ニシノホンモンジスゲ、オクノカンスゲ、ジュズスゲ、アカショウマ（花）、ヤマツツジ、キンミズヒキ、ヌカボシソウ、アシウテンナンショウ、オオナルコユリ、アマドコロ、ハクサンアザミ、オオイチゴツナギ、ミゾイチゴツナギ、ヤマミゾイチゴツナギ、ヤブタビラコ、ドジョウツナギ、オオヨモギ、シヤク、リョウハクトリカブト、ヤマブキショウマ、ヤマチドメ、ヨメナ、ミヤマトウバナ、ノアザミ、オオサトメシダ、オニドコロ、ズミ。

せっかく息を切らせて登ったのですが、この辺りで車道とぶつかります。あ〜あといいながら、ここで小休憩をとりました。登山道には、クサスゲ、ミノボロスゲ、ヒメシラスゲ、ツボスマレ、カワラスゲが見られました。ここで、後続のゆったりグループと合流しました。

この分だとも目的地にまで着きそうにはありませんが、ゆったりペースで、すすみます。ウリハダカエデ、ナルコユリ、キクバドコロ（花）、タラノキ（大木）、ヤマモミジ、ツクバネウツギ、ササユリ、ホソバカンスゲ、エゴノキ、ナンキンナナカマド、ツリガネニンジンがみられました。

ここで、また、新しく作られた車道（標高720m）に出ました。ここでは工事の際に持ち込まれた移入種も入っており、オニウシノケグサ、オオウシノケグサ、ヌカボ、オカトラノオ、サビバナナカマド、シロバナハナニガナ、タンナサワフタギ、ミヤマカンスゲ、アオゴウソなどが見られました。もう、お昼ということで、ここで御弁当を広げました。

御弁当タイムも終わり、来た道を帰ります。途中の車道にぶつかったところで、記念撮影をしました。ここでは、のり面にメドハギ、アズマナルコ、オオスズメノテッポウ、コメガヤなどが見られました。

登山道の入り口まで来て、今度はリフトを使って、ロープウェイの山頂駅まで向かいました。リフトを降りたところで、たいへん意欲的な参加者のみなさんが、リフトに乗っているときに遠目で見えた植物は何だろう？と、せっかくリフトであがったにもかかわらず、歩いて下り、見に行かれた方も有りました。見られた植物は、帰化植物のハナヤエムグラでした。

こうして、山頂駅を1時45分に出発し、下山しました。（金沢大学植物園 吉本敦子）



学会のホームページのお知らせ

植物地理・分類学会のホームページがあります。その中に、お知らせ、投稿規定、会則、入会案内、および論文索引があります。論文索引は第1巻第1号から第52巻第1号までの通巻155号につき、著者名と日本語の論文名が出ていますので、御活用ください。

<http://raicho.sci.toyama-u.ac.jp/~naruiwa/phytogeographyandtaxonomy.html>

本会出版物とバックナンバーのセールのお知らせ

本会出版物

以下の本（2002年発行を除く）は以前の頒布価格の約半額になっています。この機会にお求めください。いずれも送料込みの値段です。

桑原義晴（1977,1982年発行）：日本イネ科植物生態図譜 第三巻 1,000円（第一巻，第二巻，第四巻は売り切れました）

石川県教育委員会（1978年発行）：手取川流域の手取統珪化木産地調査報告書 4,000円

植物地理・分類研究会（1986年発行）：植物地理・分類研究（北陸の植物）索引 1,000円（1952年の第1巻から1985年の第33巻までの索引で、和名索引，学名索引，著者名索引からなっている）

植物地理・分類学会（2002年発行）：各都道府県別の植物自然史研究の現状 2,000円（植物地理・分類研究 創刊50周年記念号（第152号）の第2部各都道府県別の植物自然史研究の現状 143～262頁を小冊子にしたもの，レッドデータブック植物編一覧追録（1），（2）付）

バックナンバー

雑誌の名前が「植物地理・分類研究」となった第27巻から第49巻（通巻第105号～第150号）まで，計23巻（44冊）をセットとして販売しております。2005年12月末日まで，セット価格は送料込みで4万円です。ただし，学会会員で個人の購入に限り3万円です。セット以外，分冊の場合は，下記の従来通りの価格です。

1巻ごとのバックナンバー価格

Vol. 27～Vol. 29	個人会員	1,500円	団体会員	2,500円	会員外	3,000円
Vol. 30～Vol. 43	個人会員	2,000円	団体会員	3,000円	会員外	4,000円
Vol. 44～Vol. 48	個人会員	3,000円	団体会員	4,000円	会員外	6,000円
Vol. 49～Vol. 51	個人会員	4,000円	団体会員	6,000円	会員外	8,000円

申し込み先：〒930-8555 富山市五福3190 富山大学理学部生物学科

岩坪美兼（会計幹事） Tel. 076-445-6628（直通） Fax. 076-445-6549 E-mail iwatsubo@sci.toyama-u.ac.jp

植物地理・分類学会「入会案内」

入会方法

- 1) 本学会に入会を希望される方は、切り取り線より下の部分（コピーでも可）に情報を記入のうえ、郵便で郵送先に送ってください。
- 2) 同時か又は短期間に、個人会員の場合は、年会費4,000円（学生会員1,000円）、団体会員は6,000円を、郵便振替口座00760-0-904番、植物地理・分類学会宛に振り込んでください。
- 3) 郵送先：
〒930-8555 富山市五福3190 富山大学理学部生物学科
植物地理・分類学会
TEL 076-445-6628
FAX 076-445-6549

..... 切り取り線

年 月 日

ふりがな 氏 名	英語表記： 生年月日 年 月 日
所 属： 同上住所：〒 電 話：	FAX： E-MAIL：
自宅住所：〒 電 話：	FAX： E-MAIL：
会誌送付先（どちらかに○）	勤務先 自宅
「現在取り組んでいる研究課題，興味のある分類群・地域」について： (キーワードで5語以内でお願いします)	

CONTENTS

Paper for the lecture of the society's award

Tomiki Kobayashi : Flora of Hyogo Prefecture with special reference to *Arisaema* (Araceae)111

Abstract for the lecture of the society meeting

Jin Murata : Recent progress in the systematics of *Arisaema* (Araceae)123

Articles

Naohiro Naruhashi, Takashi Sawanomukai, Takao Wakasugi and Yoshikane Iwatsubo : A new variety of *Scutellaria* (Lamiaceae) from Japan127

Yoshikane Iwatsubo, Goro Kodate and Naohiro Naruhashi : Polyploidy of *Reynoutria japonica* var. *japonica* (Polygonaceae) in Japan137

Nina M. Derzhavina, Nina I. Shorina and Katsuhiko Kondo : A comparison of structural adaptation in three petrophyte ferns143

Satoko Kawarasaki, Yoshiko Abe and Yoshimichi Hori : Effect of temperature on achene germination in five Mutisieae understory herbaceous species (Asteraceae)159

Takaaki Hanai, Mikio Watanabe and Shunsuke Serizawa : Taxonomic studies of *Polygonum thunbergii* s. lat. (Polygonaceae) (1) Detection of taxonomic units in Aichi and south-eastern Gifu Prefectures167

Short communications

Yasushi Ibaragi : *Miscanthidium junceum* subsp. *teretifolium* (Poaceae) ; a new combination for an African grass175

Xiao-Dong Dong, Masashi Nakata, Kiyotaka Kawazumi and Takaaki Oohara : Chromosome numbers of *Eusteralis stellata* and *E. yatabeana* (Lamiaceae), vulnerable plants of Japan179

Yoshikane Iwatsubo and Naohiro Naruhashi : Karyotypes of tetraploid *Rubus parvifolius* and octoploid *R. rugosus* (Rosaceae)185

Miscellaneous notes

Hideki Takahashi : A white-flowered form of *Veronicastrum sibiricum* var. *yezoense*191

Fumihiro Konta, Teruo Katsuyama and Naohiro Naruhashi : The northernmost locality of *Rubus okinawensis* Koidz. in Shimoda, Izu Peninsula, Shizuoka, Japan192

Book reviews195

Titles of articles in other botanical journals198

Announcements202

編集委員会 (Editorial Board)

編集委員長 (Editor-in-Chief)	鳴橋 直弘 (Naohiro Naruhashi, Toyama)
主任編集委員 (Managing Editor)	岩坪 美兼 (Yoshikane Iwatsubo, Toyama)
古池 博 (Hiroshi Furuike, Kanazawa)	中田 政司 (Masashi Nakata, Toyama)
福嶋 司 (Tukasa Hukusima, Tokyo)	清水 建美 (Tatemi Shimizu, Matsumoto)
河野 昭一 (Shoichi Kawano, Kyoto)	鈴木 三男 (Mitsuo Suzuki, Sendai)
菊池多賀夫 (Takao Kikuchi, Yokohama)	和田 直也 (Naoya Wada, Toyama)
木下栄一郎 (Eiichiro Kinoshita, Kanazawa)	綿野 泰行 (Yasuyuki Watano, Chiba)
北川 尚史 (Naofumi Kitagawa, Nara)	Madjit I. Hakki (Berlin, Germany)
小島 覚 (Satoru Kojima, Tokyo)	Frederick H. Utech (Pittsburgh, U.S.A.)

2004年12月30日発行 編集発行人 〒930-8555 富山市五福 富山大学理学部 鳴橋 直弘
発行所 〒930-8555 富山市五福 富山大学理学部 生物学科内
印刷所 〒920-0855 金沢市武蔵町7番10号 植物地理・分類学会
能登印刷株式会社